

# Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ



第84期  
事業報告書  
平成16年4月1日から平成17年3月31日まで



Ahresty

株式会社 アーレスティ



# Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

---

**タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research(研究・開発)、Service(サービス)、Technology(技術)において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。**

**なお、“ Casting ”は、“ 投げかける ”という意味の他に、当社の主要事業である“ Die Casting ”の意味も込めています。**

タグライン：タグラインは、アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

# (a:resti)

これからは、より質の高い  
**Research, Service, Technology** を  
追求していきます。

アーレスティはR・S・T、Research、Service、Technologyこれらの三つの言葉の統合ですが、Rは単に研究・開発だけでなく、どうしたらもっとお客様のお役にたてるかの創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点で、そしてTはこのRとSをささえる知識と技術を考えています。この社名に込められた企業理念を大切に生かし、様々な製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

## 目 次

株主の皆様へ	2
VISION	3
コンプライアンス基本方針	4
環境方針	4
営業の概況	5
貸借対照表(連結)	7
損益計算書(連結)	8
貸借対照表(単体)	9
損益計算書(単体)	10
利益処分	10
会社の概要	11
役員	11
株式情報	12
TOPICS	13
株主メモ	14

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第84期(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)  
の事業の概要につきまして、ご報告いたします。

今後とも事業の発展に全力を尽くしてまいり所存です。株主  
の皆様におかれましては、一層のご支援とご指導を賜りますよ  
うお願い申し上げます。

平成17年6月



代表取締役社長

高橋 新

## 経営基本方針

常に生きいきと活動し理論と実験と創意と工夫を尊重して、品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう

### (1) 経営の基本方針

アーレステイはR・S・T、Research、Service、Technology、これらは三つの言葉の統合ですが「R」は単に研究・開発だけではなく、どうしたらもっとお客様のお役に立てるかの創意と探求、「S」は製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点で、「T」はこのRとSを支える知識と技術を考えております。私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求してまいります。

2005年に新しく策定した「アーレステイ10年ビジョン」では「『すべてのステークホルダーから信頼される企業』をめざす」ことを基本の方針とし、顧客・株主/投資家・従業員・取引先・社会の5つの利害関係者の視点に立って「信頼される企業」となるためにはどうすべきかという観点で、あるべき姿を描き、具体的な指針・手段として方針を定めております。この10年ビジョンをベースに中期経営方針(0507 3カ年アーレステイ方針)では、より具体的な施策・目標値を設定し、更に部門方針へと展開して全社的な方針管理活動を推進してまいります。

### (2) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

アーレステイは、開発力・技術力を基盤として、自動車の軽量化に対応した新分野の製品開発を進める一方、低コストの実現・高品質化による差別化を追求し収益力の高い企業を目指します。そのためにはより一層の経営の効率化、透明性の確保により継続的な企業価値の向上を図り、社会およびお客様から信頼される企業の実現に努めます。また、企業倫理の確立を行うため当社では「アーレステイコンプライアンス基本方針」を制定し、グループ会社を含む全社において法令、倫理遵守の機能を高めております。

## Ahresty Code of Compliance Standards

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員および従業員は、自らの行動または業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- 1 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- 2 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- 3 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- 4 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- 5 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- 6 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- 7 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- 8 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- 9 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- 10 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。

## Environmental Activities

かけがえのない地球を守るのは私たちの大切な役割です。株式会社アーレスティの環境への取り組みをご紹介します。

- 1 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地域環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらが必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
- 2 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を遵守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
- 3 私たちは特に次の事項について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。  
大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。  
廃棄物の再資源化100%を維持します。  
廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。  
CO2排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。  
環境に配慮した製品及び商品の開発・設計に取組みます。
- 4 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的にを行います。
- 5 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。  
～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～

## 営業の概況

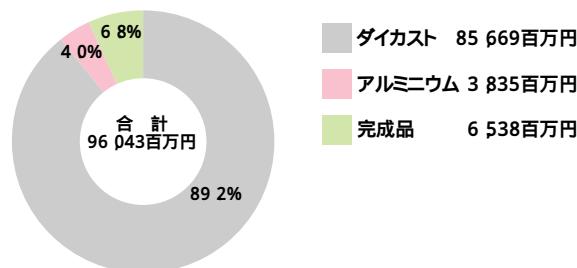
### 企業集団の営業の経過および成果

当営業年度におけるわが国の経済は、企業収益の改善等を受けて景気は総じて回復基調を示したものの、依然として進まぬ雇用・所得環境や年金問題など将来に対する不安が払拭できず、個人消費も本格的な回復には至っておらず、不透明な状況のまま推移しました。

このような情勢のもとで、当社グループは各事業において積極的な販売活動を進めるとともに、原価低減や業務の効率化などを推進してまいりました。また、当社グループの連携をより強化し経営効率を高めるため当期に5社を連結子会社化しております。

この結果、当営業年度における業績は、売上高は前期に比べ23.9%増加し949億6千7百万円となりました。収益面は、前期に比べ営業利益は48.0%増加し155億9千7百万円、経常利益は54.3%増加し48億3百万円、当期純利益につきましても22.5%増加し22億6千5百万円となりました。

### 営業部門別売上状況



### 業績の推移(連結)



### ダイカスト部門

当部門の売上高は、平成15年10月に京都ダイカスト工業㈱と合併したこと等により前期に比べ24.1%増加し、845億9千3百万円となりました。

京都ダイカスト工業㈱との合併による売上増加分を除くと、当社の主力製品である四輪部品は、自動車メーカー各社の国内販売の伸び悩みを好調な輸出で補い11.2%の増加となりました。二輪車につきましても9.6%の増加となりました。

収益面においては生産性の改善を始めとする原価低減活動等を積極的に進めてまいりましたことにより増益となりました。

### 売上高(連結)



## アルミニウム部門

当部門の売上高は、アルミニウム地金の販売重量が前期に比べ7.2%増加し、上期の市況販売価格上昇の影響もあり、前期に比べ12.9%増加し38億3千5百万円となりました。収益面においては、下期原料価格の値上がりの影響がありました。生産性の向上で吸収したことにより増益となりました。

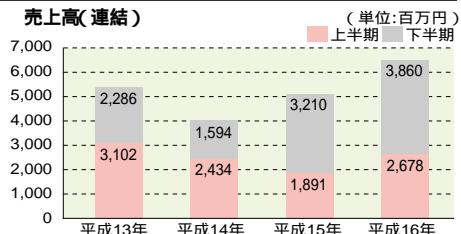
## 売上高(連結)



## 完成品部門

当部門の売上高は、前期に比べ28.2%増加し65億3千8百万円となりました。建材は、半導体関連の設備投資の増加で売上高は前期に比べ31.5%増加となりました。園芸用品は、芝刈機の組立生産を中国に移管し、コストダウンを図り、細かい販売活動を行ったものの天候の影響を大きく受け販売不振となり、売上高は前期に比べ36.2%減少となりました。収益面においては、建材の収益改善が大きく進んだことにより、部門全体で大幅な増益となりました。

## 売上高(連結)



## 企業集団が対処すべき課題

当社の対処すべき課題は下記の通りです。

### 人材育成と確保

中長期の経営戦略を推進するうえで、技術者を中心とした人材育成と確保が不可欠であり、人材育成については、平成17年度より本格導入する人事評価制度のしくみを通じて実施し、人材確保については、積極的なリクルート活動を展開してまいります。

### 豊橋工場の再建

豊橋工場は、平成15年10月に合併した京都ダイカスト工業㈱の主力工場でありましたが、生産性が低く、これを改善して収益性を高めることが課題でありました。この課題に対し、設備面、管理面、販売面での様々な対策を実施してまいりましたが、合併初年度に比べれば改善したものの当社他工場より生産性が劣っております。中期的な経営戦略を達成するうえでも豊橋工場の生産性を改善することは急務であり、今後も生産性改善につながる施策を着実に実行し、より一層の収益改善を図ってまいります。

### マグネシウム事業部の事業成立(先行投資段階から収益貢献事業への転換)

マグネシウムダイカストは自動車の軽量化ニーズにより今後の需要拡大が見込まれ、当社では平成11年にマグネシウム事業部を発足し、生産および原材料再生に関する技術開発を進めてまいりました。現在では、四輪車用の耐熱マグネシウムダイカスト部品、二輪車用のマグネシウムダイカスト部品を量産しておりますが、まだ先行投資の段階であり収益面で寄与していません。今後、軽量化に対するニーズを掴み積極的な受注活動を展開して、事業として成立させるよう推進してまいります。

### 園芸事業の見直し

完成品事業における園芸部門では、芝刈機を中心とした商品を販売しております。

製造コストを削減するため平成16年には生産を中国に移管して収益改善を行ってまいりましたが、国内需要の低迷の中で販売不振が続き、コスト低減では一定の効果が見られたものの充分ではありませんでした。今後、当部門の事業継続に関しては、撤退も含めて検討してまいります。

### リスクマネジメントとしての地震対策

当社グループの事業等のリスクとしては、政治・経済状況・各種規制等(特に日本・北米・アジアでの自動車業界を取り巻く経済状況等)を替・金利等の金融市場環境の変化、災害・戦争・テロ等の影響がありますが、これらリスク発生の可能性を認識して、その発生の回避及び発生した場合の影響の極小化に取り組んでまいります。なかでも災害(特に地震)に対するリスク対応として、防災体制組織の整備、生産工場の建築物・インフラを含む設備等の耐震対策、災害時における当社及び当社グループ会社間での生産補完に関して計画的に対応策を実施してまいります。

当社の主要な事業であるダイカスト部門においては、主要顧客先である自動車産業界の生産量の増加および軽量化ニーズによりダイカスト需要は、来期においても堅調に推移するものと見込まれます。アルミニウム部門においてもその主な需要先がダイカスト部門と同一業界であることから、来期も堅調に推移するものと見込まれます。完成品部門においては、半導体関連の設備投資が今期並みに続く予測され、需要は堅調に推移すると見込まれます。全部門共に需要としては、堅調に推移するものと見込まれますが、品質面・コスト面での競争は引き続き厳しい状況が続くと予測されます。当社としましては「10年ビジョン」、「0507 3ヵ年アーレスティ方針」の達成に向けて技術力、販売力、組織力等の経営資源を最大限に活用し、全従業員が積極的に行動して計画達成に全力で取り組んでまいります。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 平成17年3月31日現在	前 期 平成16年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流 動 資 産</b>	34,924	32,954
現金及び預金	2,604	2,255
受取手形及び売掛金	22,914	22,047
たな卸資産	7,763	7,298
繰延税金資産	866	570
その他の	777	793
貸倒引当金	3	10
<b>固 定 資 産</b>	32,623	28,763
<b>有形固定資産</b>	24,308	21,078
建物及び構築物	6,128	4,779
機械装置及び運搬具	10,945	8,484
工具器具備品	2,658	2,570
土地	2,918	3,104
建設仮勘定	1,657	2,139
<b>無形固定資産</b>	1,142	331
ソフトウェア	341	304
連結調整勘定	757	-
その他の	42	26
<b>投資その他の資産</b>	7,173	7,353
投資有価証券	6,185	6,931
長期貸付金	27	7
繰延税金資産	447	85
その他の	525	382
貸倒引当金	12	53
<b>資 産 合 計</b>	67,548	61,718

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	当 期 平成17年3月31日現在	前 期 平成16年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流 動 負 債</b>	32,650	29,526
支払手形及び買掛金	19,491	18,971
短期借入金	4,186	5,258
1年以内返済予定の長期借入金	2,398	1,934
未払法人税等	1,913	287
未払費用	1,077	993
賞与引当金	1,141	1,053
その他の	2,441	1,027
<b>固 定 負 債</b>	13,072	12,656
社 債	1,000	1,000
長期借入金	6,630	8,684
繰延税金負債	1,418	549
退職給付引当金	2,296	2,285
役員退職慰労引当金	143	122
連結調整勘定	1,528	-
その他の	54	14
<b>負 債 合 計</b>	45,722	42,182
<b>少数株主持分</b>		
<b>少 数 株 主 持 分</b>	98	592
<b>資本の部</b>		
<b>資 本 本 金</b>	1,691	1,691
<b>資 本 剰 余 金</b>	1,253	1,141
<b>利 益 剰 余 金</b>	17,968	15,843
その他有価証券評価差額金	1,762	1,485
為替換算調整勘定	906	1,054
自 己 株 式	41	164
<b>資 本 合 計</b>	21,727	18,943
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	67,548	61,718

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目		当 期	前 期
		平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
経常損益の部	営業収益		
	売上高	94,967	76,665
	営業費用		
	売上原価	81,745	66,034
	販売費及び一般管理費	7,493	6,757
	営業利益	5,728	3,874
	営業外収益	580	604
	受取利息及び受取配当金	87	53
	その他営業外収益	492	550
	営業外費用	1,373	1,271
支払利息	301	335	
その他営業外費用	1,072	935	
経常利益	4,935	3,207	
特別損益の部	特別利益	2,461	108
	固定資産売却益	1,069	37
	投資有価証券売却益	1,286	1
	その他特別利益	105	70
	特別損失	1,093	182
	固定資産除売却損	226	142
	減損損失	774	-
その他特別損失	92	39	
税金等調整前当期純利益	6,302	3,133	
法人税、住民税及び事業税	2,735	628	
法人税等調整額	32	553	
少数株主利益	1,209	50	
当期純利益	2,325	1,900	

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 単体財務諸表

## 単体貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流 動 資 産</b>	30,159	30,019
現金及び預金	1,761	1,288
受取手形	4,042	3,714
売掛金	17,087	16,987
製品	1,531	1,653
原材料	912	1,020
仕掛品	2,556	2,332
貯蔵品	187	199
前渡金	395	915
前払費用	6	12
繰延税金資産	363	384
短期貸付金	324	542
未収入金	994	707
その他	3	2
貸倒引当金	6	6
<b>固 定 資 産</b>	23,187	19,192
<b>有形固定資産</b>		
建物	1,892	1,751
構築物	175	166
機械及び装置	2,632	2,640
車両運搬具	53	76
工具器具備品	1,509	1,469
土地	1,244	1,221
建設仮勘定	584	585
<b>無形固定資産</b>		
電話加入権	14	14
ソフトウェア	256	270
ソフトウェア仮勘定	17	4
その他	0	0
<b>投資その他の資産</b>	14,804	10,989
投資有価証券	5,082	4,933
子会社株式	9,209	5,756
長期貸付金	27	19
長期前払費用	12	6
その他	483	326
貸倒引当金	10	53
<b>資 産 合 計</b>	<b>53,346</b>	<b>49,211</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	当 期	前 期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流 動 負 債</b>	30,887	26,173
支払手形	9,812	9,256
買掛金	7,477	7,196
短期借入金	4,130	4,730
1年以内返済予定長期借入金	2,030	1,592
未払金	413	263
未払費用	335	375
未払法人税等	480	-
未払消費税等	108	99
前受金	143	209
預り金	4,878	1,527
前受収益	3	3
賞与引当金	720	740
設備関係支払手形	348	177
その他	6	2
<b>固 定 負 債</b>	8,757	10,348
社 債	1,000	1,000
長期借入金	4,737	6,767
繰延税金負債	1,007	520
退職給付引当金	1,869	1,938
役員退職慰労引当金	143	122
<b>負 債 合 計</b>	<b>39,645</b>	<b>36,522</b>
<b>資本の部</b>		
<b>資 本 本 金</b>	1,691	1,691
<b>資 本 剰 余 金</b>	1,129	1,129
資本準備金	1,129	1,129
<b>利 益 剰 余 金</b>	9,157	8,407
利益準備金	393	393
任意積立金	7,252	6,961
配当準備積立金	120	120
買換資産圧縮積立金	275	279
固定資産圧縮積立金	6	8
特別償却準備金	10	13
別途積立金	6,840	6,540
当期末処分利益	1,511	1,052
<b>株 式 等 評 価 差 額 金</b>	1,758	1,479
<b>自 己 株 式</b>	35	18
<b>資 本 合 計</b>	<b>13,701</b>	<b>12,689</b>
<b>負 債 及 び 資 本 合 計</b>	<b>53,346</b>	<b>49,211</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 単体損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
<b>営業収益</b>		
<b>売上高</b>	82,895	68,354
<b>営業費用</b>		
<b>売上原価</b>	75,034	61,706
販売費及び一般管理費	5,245	4,987
<b>営業利益</b>	2,614	1,661
<b>営業外収益</b>	553	455
受取利息及び配当金	157	120
その他営業外収益	396	335
<b>営業外費用</b>	997	932
支払利息	187	191
その他営業外費用	810	741
<b>経常利益</b>	2,171	1,184
<b>特別利益</b>	1,071	3
固定資産売却益	1,067	0
投資有価証券売却益	-	0
その他特別利益	3	3
<b>特別損失</b>	238	57
固定資産除売却損	126	39
減損損失	21	-
その他特別損失	90	18
<b>税引前当期純利益</b>	3,003	1,129
法人税、住民税及び事業税	882	103
法人税等調整額	317	386
<b>当期純利益</b>	1,803	639

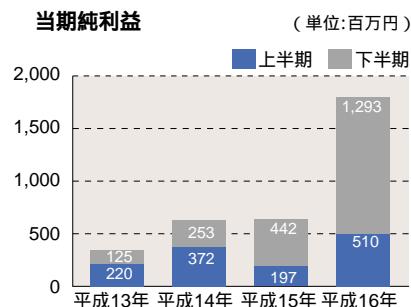
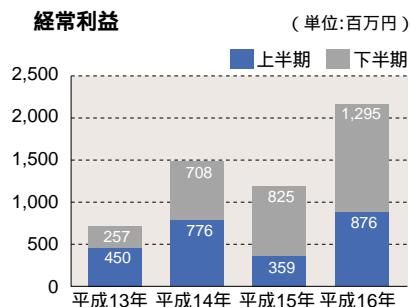
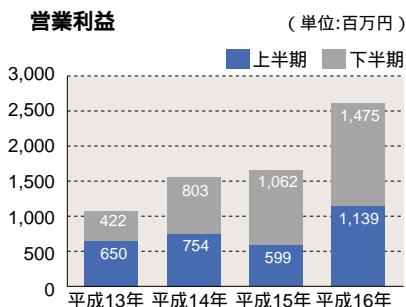
(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 利益処分

(単位：円)

摘 要	金 額
当 期 未 処 分 利 益	1,511,507,065
買換資産圧縮積立金取崩額	3,293,782
固定資産圧縮積立取崩額	1,427,789
特別償却準備金取崩額	3,215,904
<b>合 計</b>	1,519,444,540
これを次のとおり処分します。	
株 主 配 当 金	248,846,864
1株につき普通配当14円	
役 員 賞 与 金	21,000,000
(うち監査役賞与金)	(1,000,000)
買換資産圧縮積立金	195,216,883
買換資産圧縮特別勘定積立金	305,153,195
別 途 積 立 金	300,000,000
<b>合 計</b>	1,070,216,942
次 期 繰 越 利 益	449,227,598

## 業績の推移(単体)



## 会社の概要

会社概要(平成16年9月30日現在)

商号	株式会社アーレスティ
設立	昭和18年11月2日
資本金	16億9,131万円
会社が発行する株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	17,800,670株
株主数	3,512名
従業員数	924名

## 役員

取締役および監査役の氏名(平成16年9月30日現在)

取締役社長	高橋新
専務取締役	平等佳男
常務取締役	小木旭
取締役	林禎一
取締役	熊木勉
取締役	早乙女隆
取締役	比企能信
常勤監査役	古本一之
常勤監査役	宇野信夫
監査役	大崎巖男
監査役	早乙女唯夫

## 事業拠点一覧

### 本社・工場

本社	〒174-8255 東京都板橋区坂下2-3-9 電話 03(3966)6115
東松山工場	〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町大字都25-27 電話 0493(56)4421
熊谷工場	〒360-8543 埼玉県熊谷市大字御稜威原字東山284-11 電話 048(533)5161
浜松工場	〒433-8520 静岡県浜松市小豆餅4-14-1 電話 053(436)2111
豊橋工場	〒441-3153 愛知県豊橋市二川町字東向山80 電話 0532(41)0511

### 営業所

関東営業所	〒105-0003 東京都港区西新橋2-39-3 電話 03(6402)1393
埼玉営業所	〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町大字都25-27 電話 0493(56)4428
厚木営業所	〒243-0014 神奈川県厚木市旭町5-43-14 電話 046(229)8105
栃木営業所	〒321-0215 栃木県下都賀郡壬生町大字壬生乙4060 電話 0282(82)0924
浜松営業所	〒433-8113 静岡県浜松市小豆餅4-14-1 電話 053(436)2115
名古屋営業所	〒446-0054 愛知県安城市二本木町切替7-2 電話 0566(77)6473
大阪/関西営業所	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-23-26 電話 06(6386)7575
福岡営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-13-6 電話 092(411)1556
仙台営業所	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町2-2-11 電話 022(266)0937

## 株式情報

株式状況(平成17年3月31日現在)

### 株式数および株主数

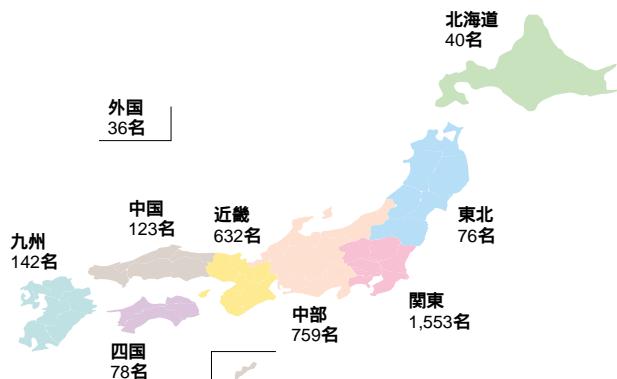
会社が発行する株式の総数	30,000,000株
発行済株式総数	17,800,670株
株主数	3,439名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)
高橋利江	1,075,647
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	864,100
株式会社UFJ銀行	692,875
本田技研工業株式会社	672,755
日本軽金属株式会社	657,392
日本ラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	630,400
スズキ株式会社	565,767
株式会社みずほコーポレート銀行	544,375
指定単受託者三井アセット信託銀行株式会社1口	510,000
富士重工業株式会社	509,490

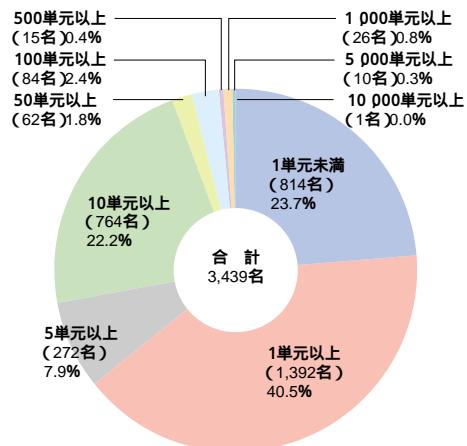
(注)当社は自己株式2,439株を保有していますが、上記の表には記載していません。

### 地域別株主分布図

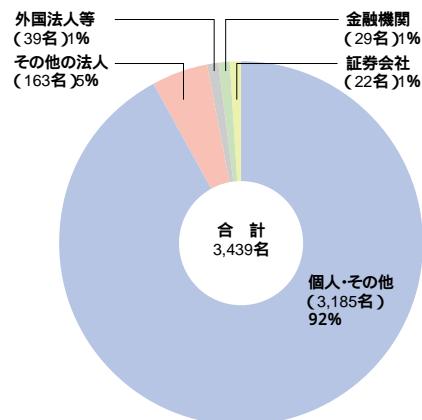


株式の分布状況

### 所有株数別株主分布



### 所有者数別株主分布



## 中国進出 広州阿雷斯提汽车配件有限公司操業開始



平成16年8月竣工し、9月よりパイロット運転を経て、平成17年4月より量産稼動となりました。

会社概要	
資本金	49百万人民元 (703百万円)
従業員数	65名
敷地面積	43,000㎡
建物面積	3,000㎡
機械設備	
鋳造機	650トン 1台
800トン	1台

## 株式会社アーレスティ栃木敷地内に加工工場増設



加工付き製品受注増加に伴い、平成16年12月に株式会社アーレスティ栃木敷地内に約2,800㎡の加工工場完成致しました。

自動車メーカーの四輪車部品用加工設備及び建材(モパフロア)の加工設備が順次稼動しております。

### 株主メモ

---

決算期	毎年3月31日
配当金	毎年3月末日の株主名簿に記載された株主または登録質権者にお支払いいたします。
中間配当金	取締役会の決議によりあらかじめ広告した場合は9月末日の最終株主名簿に記載された株主または登録質権者にお支払いいたします。
定時株主総会	毎年6月
名義書換代理人	UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話 0120 - 232 - 711(通話料無料)
同 取 次 所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所	東京証券取引所
公告掲載紙	日本経済新聞

当社ホームページ <http://www.ahresty.co.jp/>

### お知らせ

---

#### 株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記名義書換代理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

0120 - 244 479( UFJ信託銀行本店証券代行部 )  
0120 - 684 479( UFJ信託銀行大阪支店証券代行部 ) } 通話料無料

インターネットアドレス <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

## Research Service Technology

株式会社 **ア-レスティ**

本 社 / 〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1 Tel.03-5332-6001

営業所 / 栃 木 Tel.0282-82-0924 埼 玉 Tel.0493-56-4428 鈴 鹿 Tel.0593-84-8086

厚 木 Tel.046-229-8105 浜 松 Tel.053-436-2115 名古屋 Tel.0566-77-6473

大 阪 Tel.06-6386-7575 福 岡 Tel.092-411-1556

仙 台 Tel.022-266-0937 関 東 Tel.03-6402-1393

URL: <http://www.ahresty.co.jp>



EMS Accreditation  
RE014



EMS Registration  
JUSE-EG-048



OS Accreditation  
R008



OS Registration  
JUSE-RA-053

ISO14001:1996 認証取得 2001年3月

ISO9001:2000 認証取得 1997年3月